

## 1. 教員および授業の概要

① 教員名： 渡辺 圭 (Watanabe Kei)

② 担当科目

博士前期課程：北東アジア超域研究総論  
北東アジア専門講義 6 (比較宗教文化論)  
北東アジア研究指導 I～IV

③ 教員のプロフィール

- ・ロシア連邦モスクワ国立大学哲学部宗教学科修士課程修了 (宗教学)
- ・千葉大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了 (文学)
- ・千葉大学全学教育センター・文学部非常勤講師、上越教育大学学校教育学部非常勤講師等を経て、2017年4月より島根県立大学総合政策学部北東アジア地域研究センター嘱託助手、2021年4月より島根県立大学国際関係学部国際関係学科国際関係コース講師。

④ 所属学会

- ・ロシア史研究会、日本ロシア文学会、日本ロシア思想史学会

⑤ 研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ロシア正教会史
- ・ロシア宗教思想史
- ・現代ロシアにおける宗教教育
- ・ソ連邦崩壊以降の宗教セクトの諸問題とロシア正教会における反セクト言説
- ・現代アメリカのキリスト教福音派のプロパガンダ活動
- ・カトリックにおける神秘主義思想 (特に中世ドイツ神秘霊性)

⑥ 研究指導方針

大学院における研究活動は、学部生時代の4年間に基礎的な学問の作法を身に付けていることを前提とします。そこから進んで、テーマを絞り込み、自分がどの様なディシプリンに依って立つのかを明確化する必要があります。私を例に挙げますと、それは、キリスト教史、宗教学、哲学となります。資料の読解については①自分の研究テーマに必要な資料の選別および渉猟、②資料読解に必要な外国語の運用能力が必須です。①においては求める資料の所在を調べ、実際に所蔵場所に赴くことが不可欠です。②においては、自身が考察対象とする地域の研究に際して、如何なる言語の知識が必要なのかを最初にしっかりと考えてください。また、大学院における研究活動では、様々な分野の様々な科目が刺激を与えてくれます。どうか恐れずに知の大海へと漕ぎ出してください。こちらの方も院生の方々それぞれの研究テーマ・関心に柔軟に対応して研究指導を行いたいと思います。

⑦ 指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

「北東アジア超域研究総論」においては、東のキリスト教とも言われる東方正教会を例にとり、宗教の「越境」の問題を論じています。サンプルとなるのはロシアと日本ですが、根底にあるのは「パレスチナで生まれたキリスト教がいかにして世界宗教になったのか」という問題意識です。このように、指導可能な研究テーマは宗教の越境の問題、地域社会と宗教の関係性についてです。また過去にはアメリカのキリスト教福音派の宗教教育についても論じたことがあります。当該のテーマに関連しつつ、映像資料を用いて展開したそこでの論点は、宗教における子供の教育の問題でありました。

## 2. 研究業績リスト

### ①著書

- 1) 『ロシア革命と亡命思想家 1900 - 1946』成文社、2006年（共著）
- 2) 『ロシア文化の方舟 ソ連崩壊から二〇年』東洋書店、2011年（共著）

### ②論文

- 1) 「ロシア正教会における20世紀初頭の異端論争『讚名派』問題：その思想的特徴と『アトス山の動乱』の背景」『ロシア史研究』第76号、2005年、78 - 98頁。
- 2) 「『アトス山の動乱』その後：掌院ソフロニイ・サハロフの『神名論』のための予備的考察」『ロシア思想史研究』第3号、2006年、203 - 216頁。
- 3) 「カフカス山脈の隠修士スキマ僧イラリオンの『荒れ野』の修道思想」『スラヴ研究』第53号、2006年、193 - 215頁。
- 4) 「アトス山の長老聖シルアン：ある聖人の肖像」『ロシア思想史研究』第4号、2007年、427 - 445頁。
- 5) 「クロンシュタットの聖イオアンの『キリストにおける我が生命』：20世紀初頭ロシアにおける「名前の哲学」の源流の探求」『ロシア思想史研究』第5号、2010年、32 - 51頁。
- 6) 「ロシア正教会の修道思想から見た『カラマーゾフの兄弟』の世界：長老制度と聖人の肉体」『ドストエーフスキイ広場』第19号、2010年、21 - 51頁。
- 7) 「ロシア正教会の宗教思想史における讚名派問題：『イエスの祈り』の受容の歴史をめぐって」千葉大学社会文化科学研究科博士後期課程学位請求論文、2010年。
- 8) 「現代ロシア正教聖職者の護教論：長輔祭アンドレイ・クラエフの神智学批判書における『神なき宗教』」『ロシア語ロシア文学研究』第47号、2015年、121 - 140頁。

### ③研究ノート

- 1) 「ロシア正教会の靈的文献における人間観」『ロシア思想史研究』第9号、2018年、19 - 32頁。